後期実施計画（令和３年度～令和７年度）　施策評価シート

１．基本情報

基本目標	1	みんなで支え合い、未来につなぐまちづくり	担当部	福祉保健部
基本施策	4	高齢者が生きがいを持って暮らせるまちづくり		
単位施策名称	1	高齢者福祉の充実		
施策の方向性	●高齢者が様々な分野で生きがいを感じられるよう、高齢者の社会参加や元気づくりにつながる取り組みを支援します。 ●保健・医療・福祉が連携して高齢者を支えるため、高齢者福祉サービスの充実を図ります。 ●住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、住民、民間団体、行政機関などが一体となった支援の輪を広げます。 ●高齢者ができるだけ介護を必要としない生活を送り、いつまでも元気に暮らせるよう、介護予防事業の充実を図ります。			

２．施策目標（施策指標）

No.	目標指標	単位	区分	計画策定時の状況	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
1	元気な高齢者の割合	%	目標値		78.8	79.1	79.4	79.7	80.0
			実績値	78.0	78.3	79.4	80.5	80.9	80.3
			達成状況		未達成	達成	達成	達成	達成
2			目標値						
			実績値						
			達成状況						
3			目標値						
			実績値						
			達成状況						

３．評価と対応方針（各部評価）

・分析

（施策目標達成・未達成の要因、前年度評価を踏まえた見直し状況、新たに発生した課題・環境変化等）

R3	新型コロナウイルス感染症の影響による活動制限もあり、年間を通して自由に活動できなかったこともあり、目標には届かず未達成となりました。
R4	新型コロナウイルス感染症の影響による活動制限もありましたが、年間を通して少しずつ自由に活動できるようになり、目標は達成となりました。
R5	新型コロナウイルス感染症が５類に移行したことで個人及び各団体等の活動が活発となり、目標は達成となりました。
R6	高齢者いきいき活動ポイント事業への参加者拡充に向け、未参加者への周知を強化し参加者が増加した。
R7	高齢者いきいき活動ポイント事業等の実施が浸透し、期間内において元気な高齢者の割合は80%前後を推移するとともに、令和4年度以降は毎年度施策指標を達成していることから、一定の成果を得たものと分析します。

・評価及び対応方針

R3	高齢者いきいき活動ポイント事業を活用し、元気な高齢者を増やしていくためにも、現在24%である事業参加率を上げていく必要があります。今後は、広報啓発による新規参加者の開拓と、参加者の活動継続が図れるような仕組みづくりを考えていきます。
R4	高齢者いきいき活動ポイント事業を活用し、元気な高齢者を増やしていくためにも、事業参加率を上げていく必要があります。今後は、広報啓発による新規参加者の開拓と、参加者の活動継続が図れるような仕組みづくりを考えていきます。
R5	高齢者いきいき活動ポイント事業を活用し、元気な高齢者を増やしていくためにも、事業参加率を上げていく必要があります。今後は、広報啓発による新規参加者の開拓と、参加を促進する仕組みづくりを考えていきます。
R6	事業未参加者への周知を強化して事業への参加を促進し、高齢者の孤立防止と介護予防・健康増進を引き続き図ります。
R7	本町においても高齢化の進展は避けられないことから、住み慣れた地域で安心して暮らすことができるよう、次期実施計画においても高齢者福祉の継続・充実が望まれます。

【参考】施策の推進に要したコスト（事務事業）　（単位：千円）

No.	事業名称	R3	R4	R5	R6	R7	計
1	高齢者いきいき活動ポイント事業	35,882	34,325	38,456	38,108	39,430	186,201
2	介護施設整備助成事業	0	0	153	21,655	40,248	62,056
3							
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							
合計		35,882	34,325	38,609	59,763	79,678	248,257

後期実施計画（令和３年度～令和７年度）　事務事業評価シート

１．基本情報

総合戦略	

事務事業の名称	高齢者いきいき活動ポイント事業	事業番号	141101
担当部署名	福祉保健部　　高齢介護課		
政策体系			
基本目標	1 みんなで支え合い、未来につなぐまちづくり		
基本施策	4 高齢者が生きがいを持って暮らせるまちづくり		
単位施策	1 高齢者福祉の充実		

２．活動実績

年度	活動実績
R3	○ 活動実績に基づき付与されるポイント数に応じて、奨励金を支給しました。 ・65歳以上の対象者 12,743人 ・参加者数　　3,062人（参加率24%） ・支給実人数　3,057人（死亡等による支給中止3件、追加支給2件を除く。） ・活動団体数　628団体 ○ 令和2年9月1日から広島市と、令和4年1月1日から海田町と連携して実施しています。
R4	○ 活動実績に基づき付与されるポイント数に応じて、奨励金を支給しました。 ・65歳以上の対象者 12,946人 ・参加者数　　3,450人（参加率26.6%） ・支給実人数　3,449人 （口座未登録による支給不能者1名） ・活動団体数　661団体 ○ 令和2年9月1日から広島市と、令和4年1月1日から、海田町と連携して実施しています。
R5	○ 活動実績に基づき付与されるポイント数に応じて奨励金を支給しています。 （1pt＝100円、上限10,000円） ・65歳以上の対象者　13,041人 ・事業参加者人数　3,765人（参加率28.9%） ・奨励金支給実人数　3,765人 ・奨励金支給総額　30,559,100円（平均8,117円/人） ・活動団体数　690団体 ○ 令和2年9月1日から広島市と、令和4年1月1日から、海田町と連携して実施しています。
R6	○ 活動実績に基づき付与されるポイント数に応じて奨励金を支給しています。 （1pt＝100円、上限10,000円） ・65歳以上の対象者　13,041人 ・事業参加者人数　4,034人（参加率30.9%） ・奨励金支給実人数　4,032人 ・奨励金支給総額　33,325,300円（平均8,265円/人） ・活動団体数　715団体 ○ 令和2年9月1日から広島市と、令和4年1月1日から、海田町と連携して実施しています。
R7	○ 活動実績に基づき付与されるポイント数に応じて奨励金を支給しています。 （1pt＝100円、上限10,000円） ・65歳以上の対象者　13,046人 ・事業参加者人数　4,142人（参加率31.7%） ・奨励金支給実人数　4,142人 ・奨励金支給総額　34,593,700円（平均8,352円/人） ・活動団体数　691団体 ○ 令和2年9月1日から広島市と、令和4年1月1日から、海田町と連携して実施しています。 ○ 町内会の運営活動をポイント対象活動として拡充しました。

３．事業目標（事業指標）

No.	指標名称	単位	区分	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
①	参加者数	人	目標値	3,835	3,859	3,867	3,876	3,883
			実績値	3,062	3,450	3,765	4,034	4,142
			達成状況	未達成	未達成	未達成	達成	達成
②			目標値					
			実績値					
			達成状況					
③			目標値					
			実績値					
			達成状況					
④			目標値					
			実績値					
			達成状況					
指標の設定方法	高齢者の社会参加が目的のため、活動の参加者数を指標としました。							

４．コスト情報(決算)

（単位:千円）

区分	事業費合計	財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	地方債	その他	一般財源
R3	35,882	13,822	4,485	0	9,688	7,887
R4	34,325	13,434	4,291	0	9,268	7,332
R5	38,456	10,363	4,807	0	10,383	12,903
R6	38,108	9,996	4,764	0	10,289	13,059
R7	39,430	9,326	4,931	0	19,720	5,453
合計	186,201	56,941	23,278	0	59,348	46,634

5．評価と対応方針（各課評価）

・分析

	（事業目標達成・未達成の要因、前年度評価を踏まえた見直し状況、新たに発生した課題・環境変化等）
R3	新型コロナウイルス感染症の影響による外出自粛などの活動制限もあり、目標は未達成となりました。ポイントが上限額に達した時点でポイント手帳を提出され、残りの期間は活動されない参加者に活動を継続していただくことが課題です。
R4	新型コロナウイルス感染症の影響による外出自粛などの活動制限もあり、活動参加者数の目標は達成できませんでした。ポイントが上限額に達した時点でポイント手帳を提出され、残りの活動期間は活動されない参加者に活動を継続していただくことが課題です。
R5	参加率は、事業開始（R3年度）の24.0%から年々増加していますが、目標の30%には到達していません。（R5年度29.8%） なお、幅広い制度周知と効果的な事業実施について検討しました。
R6	今年度の参加者数は、4,034人と昨年度から269人の増加、事業開始から参加者は年々増加しており、目標の30%を達成しました。（R6年度30.9%） また、ポイント手帳を対象者全員に送付するのではなく、希望者に送付するなど効果的な事業実施に努めました。
R7	事業開始以来、参加者数は年々増加しており、参加率は31.7%と第9期介護保険事業計画の目標値（30.0%）を大きく上回る実績となりました。 また、地域活動への参加促進を図るため、町内会の運営活動をポイント対象活動に拡大し、活動機会の拡充を図りました。

・評価及び対応方針

R3	今後、参加者数を増やしていくために、更に広報活動を積極的に実施し、制度について幅広い周知を図ります。
R4	今後、参加者数を増やしていくために、更に広報活動を積極的に実施し、制度について幅広い周知を図ります。
R5	更なる制度周知と効果的な事業実施のため、令和6年度に手帳の交付方法等を変更する予定（手上げ方式）です。令和5年度は全対象者(65歳以上13,000人）への個別通知を2回行い、積極的な制度周知に努めました。
R6	今後も参加者数を増やしていくために、引き続き、広報活動を積極的に実施し、制度について幅広い周知を図ります。
R7	今後も、高齢者の活動機会の拡充を図るため、ポイント対象活動の拡充を進めるとともに、広報ふちゅうやＨＰ等で積極的に周知に努めます。 また、活動団体の見える化を進めることで、高齢者が希望する活動を選びやすい環境を整備し、新たな参加者の増加や継続的な社会参加の促進へつなげていきます。

6．評価と対応方針（各部評価）

・分析

	（事業目標達成・未達成の要因、前年度評価を踏まえた見直し状況、新たに発生した課題・環境変化等）
R3	新型コロナウイルス感染症の影響による外出自粛などの活動制限もあり、目標は未達成となりました。事業開始から1年が経過し、ポイントが上限額に達した時点でポイント手帳を提出される方も多く、ポイント到達後の活動継続が課題です。
R4	新型コロナウイルス感染症の影響による外出自粛などの活動制限もあり、目標は未達成となりました。事業開始から1年が経過し、ポイントが上限額に達した時点でポイント手帳を提出される方も多く、ポイント到達後の活動継続が課題です。
R5	事業目標である30%には到達しませんでしたが、少しずつ参加率は増加していることから、高齢者の関心は高まっています。引き続き参加者の増加を目指し、事業の実施方法等を研究していきます。
R6	事業が町民に広く周知されてきたことに加え、未参加者への送付方法を工夫した結果、目標を上回りました。
R7	周知方法の工夫や対象活動の拡充等の結果として、初年度以降参加者数は増加し続け、最終2か年である令和6年度と令和7年度の事業目標は達成しました。

・評価及び対応方針

R3	今後、参加者数を増やしていくために、更に広報活動を積極的に実施し、制度について幅広い周知を図るとともに、参加しやすい仕組みづくりや活動継続できる工夫をしていくことも必要です。
R4	今後、参加者数を増やしていくために、更に広報活動を積極的に実施し、制度について幅広い周知を図るとともに、参加しやすい仕組みづくりや活動継続できる工夫をしていくことも必要です。
R5	相互に事業実施している1市1町と連携するとともに、あらゆる場での広報活動等を積極的に行います。また、参加しやすい仕組みづくりや活動継続しやすい制度設計等、更なる推進を図ります。
R6	参加ポイント対象事業の内容拡充を図り活動意欲を高めるとともに、未参加者への個別勧奨を引き続き実施します。
R7	参加者数・参加率ともに増加傾向であることから、次期実施計画においても事業継続を目指します。 ただし、マンネリ化を防ぐための検討も併せて進めます。

後期実施計画（令和３年度～令和７年度）　事務事業評価シート

１．基本情報

総合戦略	

事務事業の名称	介護施設整備助成事業	事業番号	141102
担当部署名	福祉保健部　　高齢介護課		
政策体系			
基本目標	1 みんなで支え合い、未来につなぐまちづくり		
基本施策	4 高齢者が生きがいを持って暮らせるまちづくり		
単位施策	1 高齢者福祉の充実		

２．活動実績

年度	活動実績
R3	○　令和5年度開始事業のため実績なし
R4	○　令和5年度開始事業のため実績なし
R5	○　府中町地域密着型サービス事業所等設置及び運営事業者選定委員会設置規則に基づき選定委員会を開催し、看護小規模多機能型居宅介護事業所の整備にむけて事業者の公募を行いましたが提案者がいませんでした。 令和5年度に事業目標としていた介護サービス事業所の助成は見送りました。
R6	○　府中町地域密着型サービス事業所等設置及び運営事業者選定委員会設置規則に基づき選定委員会を開催し、看護小規模多機能型居宅介護事業所の整備に向けて、事業者を公募したところ、1者から応募があり、事業者として選定しました。その後、工事着手し、令和6年度中の完成に向けて工事を進めましたが、資材の入手と用地取得に時間を要し、令和７年度へ繰越しとなりました。（令和7年9月末完成、令和7年11月1日事業開始）
R7	○　前年度から引き続いて行った工事の完成により、11月１日から事業を開始しました。施設整備に伴い、高齢者が住み慣れた地域で必要なサービスを利用できる環境が、またー歩進展しました。

３．事業目標（事業指標）

No.	指標名称	単位	区分	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
①	新規助成数	施設	目標値	－	－	1	－	1
			実績値	－	－	－	－	1
			達成状況	－	－	未達成	－	達成
②			目標値					
			実績値					
			達成状況					
③			目標値					
			実績値					
			達成状況					
④			目標値					
			実績値					
			達成状況					
指標の設定方法	介護施設の充実を図ることが目的のため、新規助成数を指標としました。							

４．コスト情報（決算）

（単位：千円）

区分	事業費合計	財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	地方債	その他	一般財源
R3	0	0	0	0	0	0
R4	0	0	0	0	0	0
R5	153	0	0	0	0	153
R6	21,655	0	21,609	0	0	46
R7	40,248	0	40,248	0	0	0
合計	62,056	0	61,857	0	0	199

５．評価と対応方針（各課評価）

・分析

（事業目標達成・未達成の要因、前年度評価を踏まえた見直し状況、新たに発生した課題・環境変化等）	
R3	－
R4	－
R5	事業実施にあたっての予定地確保に苦慮する事業者が多く、複数の問い合わせ及び2回の公募実施にも関わらず応募事業者はありませんでした。次回の公募期間や周知方法等について改めて検討しました。
R6	令和7年度への繰越しとなりましたが、令和6年度末で概ね事業所完成の目途が付いたので、目標達成としました。（令和7年9月末完成、令和7年11月1日事業開始）
R7	前年度からの繰越しを経て、11月1日に事業開始となりました。これにより、医療依存度の高い高齢者を抱える家族の負担軽減に直接寄与する基盤を整備することができました。

・評価及び対応方針

R3	－
R4	－
R5	介護サービス基盤整備の必要性から、令和6年3月に策定した第9期介護保険事業計画（R6～R8）においても引き続き整備するものとし、令和6年度において公募を実施しました。
R6	今後は地域に根ざした介護事業所として運営できるよう、町として連携を図っていく必要があります。
R7	今後は、利用実績を分析し、地域密着型サービス給付費への影響を検証するとともに、次期介護保険事業計画の需要予測などの基礎資料として活用します。

６．評価と対応方針（各部評価）

・分析

（事業目標達成・未達成の要因、前年度評価を踏まえた見直し状況、新たに発生した課題・環境変化等）	
R3	－
R4	－
R5	第8期介護保険事業計画における1事業所の整備計画のもと、令和5年度に2回の公募を行いましたが、応募がありませんでした。昨今の資材(物価）高騰及び介護人材確保の課題もあり、実施ができなかったと分析します。
R6	前年度に引き続き公募を行い、１事業者から応募がありました。サービス事業所等選定委員会において、選定事業者との決定を受けたことにより、令和７年１１月からサービス開始を目指し工事着手しました。
R7	新規助成数は、期間内で2件の目標値に対し、1件という結果となりました。 しかし、町で初めての看護小規模多機能型居宅介護事業所を開設できたことは、介護サービスにおける大きな進展となりました。

・評価及び対応方針

R3	－
R4	－
R5	当該介護事業は重要なサービスであり施設整備に関する要望も多いため、第9期介護保険事業計画においても計画を継続します。
R6	資材の入手と用地取得に時間を要し、令和6年度中のサービス開始とはならなかったが、令和7年11月から地域密着事業として事業運営される見込みです。
R7	新たな事業所が開設したことにより、町の総合的な介護行政の進捗を更に注視していく必要があります。